

サクッとわかる 仕訳コレクション

試験会場に連れて行こう！
「仕訳コレクション」ダウンロードサービス付

桑原知之

日商2級「商業簿記」

変化の時代だから、質問できる優しい本

サクッとわかる

テキスト+問題集
しっかり&たのしく学んでサクッと合格！
「こんなテキスト、あったらいいな」を集めました

簿記学習の決定版！
さあ、合格めざして出発だ！

ネットスクール出版

2016年2月28日公開

仕訳1

現金・預金

第1章

当座預金勘定の残高と銀行の残高証明書残高が不一致だったため、原因を調べたところ、次のことが判明した。必要な修正仕訳を下さい。

電気代6,000円を小切手を振り出して支払ったさい、誤って2,500円と記入していたことが判明した。

(借) 水道光熱費	3,500	(貸) 当座預金	3,500
-----------	-------	----------	-------

仕訳2

現金・預金

第1章

当座預金勘定の残高と銀行の残高証明書残高が不一致だったため、原因を調べたところ、次のことが判明した。必要な修正仕訳を下さい。

買掛金の支払いのために作成していた小切手19,000円が未渡しであることが判明した。

(借) 当座預金	19,000	(貸) 買掛金	19,000
----------	--------	---------	--------

仕訳3

現金・預金

第1章

当座預金勘定の残高と銀行の残高証明書残高が不一致だったため、原因を調べたところ、次のことが判明した。必要な修正仕訳を下さい。

広告費支払いのために作成していた小切手19,000円が未渡しであることが判明した。

(借) 当座預金	19,000	(貸) 未払金	19,000
----------	--------	---------	--------

仕訳4

現金・預金

第1章

当座預金勘定の残高と銀行の残高証明書残高が不一致だったため、原因を調べたところ、次のことが判明した。必要な修正仕訳をしなさい。

得意先から売掛代金30,000円の振込みがあったが、銀行から連絡がなかった。

(借) 当	座	預	金	30,000	(貸) 売	掛	金	30,000
-------	---	---	---	--------	-------	---	---	--------

仕訳5

現金・預金

第1章

当座預金勘定の残高と銀行の残高証明書残高が不一致だったため、原因を調べたところ、次のことが判明した。必要な修正仕訳をしなさい。

得意先より、売掛金の回収として同社振出しの小切手11,000円を受け取り、ただちに当座預金口座に預け入れたが、銀行では翌日入金として処理していた。

仕	訳	な	し
---	---	---	---

仕訳6

現金・預金

第1章

当座預金勘定の残高と銀行の残高証明書残高が不一致だったため、原因を調べたところ、次のことが判明した。必要な修正仕訳をしなさい。

売掛金の回収として得意先から振り出され、銀行に預け入れていた小切手のうち、まだ取立てが行われていないものが40,000円あった。

仕	訳	な	し
---	---	---	---

仕訳7

現金・預金

第1章

当座預金勘定の残高と銀行の残高証明書残高が不一致だったため、原因を調べたところ、次のことが判明した。必要な修正仕訳を下さい。

仕入先に対する買掛金の支払いとして振り出した小切手50,000円が、未取り付けであった。

仕 訳 な し

仕訳8

手形の更改

第2章

当社がB社に対して、以前振り出した約束手形30,000円について、3ヶ月の支払期日延長の申し出をし、B社はこれを承諾した。

3ヶ月の支払期日延長に伴う利息は300円であり、現金で支払った。①当社の仕訳と、②B社の仕訳を示して下さい。

当社	(借) 支 払 手 形	30,000	(貸) 支 払 手 形	30,000
	(借) 支 払 利 息	300	(貸) 現 金	300
B社	(借) 受 取 手 形	30,000	(貸) 受 取 手 形	30,000
	(借) 現 金	300	(貸) 受 取 利 息	300

仕訳9

手形の更改

第2章

当社がB社に対して、以前振り出した約束手形30,000円について、3ヶ月の支払期日延長の申し出をし、B社はこれを承諾した。

3ヶ月の支払期日延長に伴う利息は300円であり、利息を手形に含めて支払った。①当社の仕訳と、②B社の仕訳を示して下さい。

当社	(借) 支 払 手 形	30,000	(貸) 支 払 手 形	30,300
	(借) 支 払 利 息	300		
B社	(借) 受 取 手 形	30,300	(貸) 受 取 手 形	30,000
			(貸) 受 取 利 息	300

仕訳10

不渡手形

第2章

C社振出し、当社宛ての約束手形5,000円が不渡りになったので、C社に対し償還請求を行った。なお、償還請求に伴う費用300円は現金で支払った。

(借) 不渡手形	5,300	(貸) 受取手形	5,000
		(貸) 現金	300

仕訳11

不渡手形

第2章

当社は、以前B社に裏書譲渡した、C社振出し当社宛ての約束手形5,000円が不渡りとなり、B社から償還請求の諸費用270円と延滞利息30円の請求を受け、小切手を振り出して支払った。

(借) 不渡手形	5,300	(貸) 当座預金	5,300
----------	-------	----------	-------

仕訳12

不渡手形

第2章

振出人C社より、不渡手形に係る請求代金5,300円と支払期日以降の法定利息200円を現金で受け取った。

(借) 現金	5,500	(貸) 不渡手形	5,300
		(貸) 受取利息	200

仕訳13

営業外手形

第2章

土地500円を700円で売却し、代金は約束手形で受け取った。

(借) 営業外受取手形	700	(貸) 土地	500
		(貸) 固定資産売却益	200

仕訳14

営業外手形

第2章

備品600円を購入し、代金は約束手形を振り出して支払った。

(借) 備品	600	(貸) 営業外支払手形	600
--------	-----	-------------	-----

仕訳15

債務の保証

第2章

当社は、A社の借入金200,000円について、債務の保証を引き受けたので、帳簿に備忘記録をしておく。

(借) 保証債務見返	200,000	(貸) 保証債務	200,000
------------	---------	----------	---------

当社は、A社の借入金200,000円について、債務の保証を引き受け、帳簿に備忘記録をしておいたが、A社より、この借入金200,000円を返済したとの連絡を受けた。

(借) 保	証	債	務	200,000	(貸) 保	証	債	務	見	返	200,000
-------	---	---	---	---------	-------	---	---	---	---	---	---------

当社は、C社の借入金100,000円について、債務の保証を引き受け、帳簿に備忘記録をしておいたが、この借入金100,000円について、C社が支払不能となったため、利息5,000円を含めて、当社が代わりに現金で返済した。

(借) 未	収	入	金	105,000	(貸) 現	金	105,000				
(借) 保	証	債	務	100,000	(貸) 保	証	債	務	見	返	100,000

商品2,000円をクレジット払いの条件で販売した。なお、信販会社への手数料(販売代金の4%)は、販売時に計上する。

(借) クレジット売掛金	1,920	(貸) 売	上	2,000
(借) 支払手数料	80			

仕訳19

クレジット売掛金

第2章

先にクレジット払いの条件で販売した2,000円のうち、4%の手数料の引かれた残額1,920円が、信販会社から当社の当座預金口座に振り込まれた。

(借) 当座預金	1,920	(貸) クレジット売掛金	1,920
----------	-------	--------------	-------

仕訳20

電子記録債権

第2章

C社に対する売掛金60,000円について、電子記録債権の発生記録が行われた。

(借) 電子記録債権	60,000	(貸) 売掛金	60,000
------------	--------	---------	--------

仕訳21

電子記録債権

第2章

C社に対する電子記録債権60,000円のうち20,000円について、B社に対する買掛金20,000円を支払うために譲渡記録を行った。

(借) 買掛金	20,000	(貸) 電子記録債権	20,000
---------	--------	------------	--------

仕訳22

電子記録債権

第2章

C社に対する電子記録債権40,000円のうち20,000円をD銀行で割引き、割引料1,000円が差し引かれた残額が、当座預金口座に振り込まれた。

(借) 当座預金	19,000	(貸) 電子記録債権	20,000
(借) 電子記録債権売却損	1,000		

仕訳23

電子記録債権

第2章

C社に対する電子記録債権残額20,000円について、支払期日が到来し、当座預金口座に振り込まれた。

(借) 当座預金	20,000	(貸) 電子記録債権	20,000
----------	--------	------------	--------

仕訳24

売買目的有価証券

第3章

売買目的で保有しているC社の株式250株のうち、100株を1株515円で売却し、代金は現金で受け取った。なお、C社の株式について、これまで@500円で100株、@520円で150株を順次購入しており、移動平均法による記帳を行っている。

(借) 現金	51,500	(貸) 売買目的有価証券	51,200
		(貸) 有価証券売却益	300

仕訳25

売買目的有価証券

第3章

売買目的有価証券(帳簿価額500円)の期末時価は300円であった。

(借) 有価証券評価損	200	(貸) 売買目的有価証券	200
-------------	-----	--------------	-----

仕訳26

売買目的有価証券

第3章

売買目的有価証券(帳簿価額500円)の期末時価は800円であった。

(借) 売買目的有価証券	300	(貸) 有価証券評価益	300
--------------	-----	-------------	-----

仕訳27

売買目的有価証券

第3章

前期に、500円で取得した売買目的有価証券の前期末時価は800円であり、洗替法で処理した。当期首につき、再振替仕訳を行う。

(借) 有価証券評価益	300	(貸) 売買目的有価証券	300
-------------	-----	--------------	-----

仕訳28

売買目的有価証券

第3章

前期に、500円で取得した売買目的有価証券を900円で売却し、代金は現金で受け取った。なお、この売買目的有価証券の前期末時価は、800円であり洗替法で処理している。また、当期首には再振替仕訳を行っている。

(借) 現金	900	(貸) 売買目的有価証券	500
		(貸) 有価証券売却益	400

仕訳29

売買目的有価証券

第3章

前期に、500円で取得した売買目的有価証券を900円で売却し、代金は現金で受け取った。なお、この売買目的有価証券の前期末時価は、800円であり切放法で処理している。

(借) 現金	900	(貸) 売買目的有価証券	800
		(貸) 有価証券売却益	100

仕訳30

満期保有目的債券

第3章

D社の社債を額面100円につき94円で100口購入し、証券会社への手数料 100円とともに小切手を振り出して支払った。当社はこの社債を満期まで保有する予定である。

(借) 満期保有目的債券	9,500	(貸) 当座預金	9,500
--------------	-------	----------	-------

仕訳31

満期保有目的債券

第3章

A社社債(額面総額10,000円)を×1年4月1日に額面100円につき95円で取得した。同社債の満期日は×6年3月31日である。額面金額と取得原価の差額は金利の調整と認められるため、決算(×2年3月31日)において償却原価法(定額法)を適用する。

(借) 満期保有目的債券	100	(貸) 有価証券利息	100
--------------	-----	------------	-----

仕訳32

子会社株式・関連会社株式

第3章

支配目的で、甲社株式1,800株(甲社の発行済み株式は3,000株である)を1株1,500円で購入し、代金は現金で支払った。

(借) 子会社株式	2,700,000	(貸) 現金	2,700,000
-----------	-----------	--------	-----------

仕訳33

子会社株式・関連会社株式

第3章

影響力を行使する目的で、乙社株式600株(乙社の発行済み株式は2,000株である)を1株900円で購入し、代金は現金で支払った。

(借) 関連会社株式	540,000	(貸) 現金	540,000
------------	---------	--------	---------

仕訳34

子会社株式・関連会社株式

第3章

支配目的で1株1,500円で購入した、甲社株式1,800株(甲社の発行済み株式は3,000株である)の決算日の時価は、1株1,200円であった。

仕 訳 な し

仕訳35

子会社株式・関連会社株式

第3章

影響力行使目的で1株900円で購入した、乙社株式600株(乙社の発行済み株式は2,000株である)の決算日の時価は、1株1,100円であった。

仕 訳 な し

仕訳36

その他有価証券

第3章

当社は、期中にC社の株式(その他有価証券)を購入し、期末まで保有している。次の各ケースにおいて、決算における仕訳を全部純資産直入法によって行う。

- ①: 期末時価は900円、帳簿価額は1,000円の場合
- ②: 期末時価は1,000円、帳簿価額は950円の場合

①	(借) その他有価証券 評価差額金	100	(貸) その他有価証券	100
②	(借) その他有価証券	50	(貸) その他有価証券 評価差額金	50

6月12日に売買目的でA社社債(額面総額 100,000円)を額面100円につき96円で買入れ、代金は端数利息とともに小切手を振り出して支払った。同社債の利息は年3.65%であり、利払日は3月末日である。

(借) 売買目的有価証券	96,000	(貸) 当座預金	96,730
(借) 有価証券利息	730		

6月12日に売買目的で所有していたA社社債(額面総額 100,000円、帳簿価額 97,000円)を額面100円につき96円で売却し、代金は端数利息とともに小切手で受け取った。同社債の利息は年3.65%であり、利払日は3月末日である。

(借) 現金	96,730	(貸) 売買目的有価証券	97,000
(借) 有価証券売却損	1,000	(貸) 有価証券利息	730

×2年3月31日、A社社債(額面総額100,000円)の利息を現金で受け取った。同社債の利息は年3.65%であり、利払日は3月末日である。

(借) 現金	3,650	(貸) 有価証券利息	3,650
--------	-------	------------	-------

仕訳40

有形固定資産と減価償却

第4章

×1年度の決算において、期首に取得した備品5,000円の減価償却を行う。償却方法は定率法、償却率は20%とする(間接法で記帳)。

(借) 減 価 償 却 費	1,000	(貸) 備品減価償却累計額	1,000
---------------	-------	---------------	-------

仕訳41

有形固定資産と減価償却

第4章

×2年度の決算において、前期首に取得した備品5,000円(減価償却累計額 1,000円)の減価償却を行う。償却方法は定率法、償却率は20%とする(間接法で記帳)。

(借) 減 価 償 却 費	800	(貸) 備品減価償却累計額	800
---------------	-----	---------------	-----

仕訳42

有形固定資産と減価償却

第4章

決算において、100,000円の車両運搬具について減価償却を行う。見積総走行可能距離は30,000km、当期走行距離は500km、残存価額は取得原価の10%、償却方法は生産高比例法による(間接法で記帳)。

(借) 減 価 償 却 費	1,500	(貸) 備品減価償却累計額	1,500
---------------	-------	---------------	-------

仕訳43

有形固定資産と減価償却

第4章

当期(会計期間4月1日～3月31日)の6月30日に備品(取得原価60,000円、減価償却累計額12,000円)を売却し、代金50,000円は現金で受け取った。なお、当該備品の減価償却方法は定率法(償却率年20%、間接法で記帳)である。

(借) 減 価 償 却 費	2,400	(貸) 備 品	60,000
(借) 備品減価償却累計額	12,000	(貸) 固定資産売却益	4,400
(借) 現 金	50,000		

仕訳44

建設仮勘定

第4章

建物の新築のため、建設会社と500,000円の請負金額で契約し、着手金100,000円を小切手を振り出して支払った。

(借) 建 設 仮 勘 定	100,000	(貸) 当 座 預 金	100,000
---------------	---------	-------------	---------

仕訳45

建設仮勘定

第4章

建設中の建物が完成し、引き渡しを受けたので、契約金額の残額400,000円を小切手を振り出して支払った。なお、契約時に、着手金として100,000円を支払っている。

(借) 建 物	500,000	(貸) 建 設 仮 勘 定	100,000
		(貸) 当 座 預 金	400,000

仕訳46

固定資産の割賦購入

第4章

備品100,000円を割賦契約で購入し、代金の支払いとして、毎月末21,000円支払い(総額105,000円)の約束手形5枚を振り出した。なお、利息は前払費用勘定で処理する。

(借) 備	品	100,000	(貸) 営業外支払手形	105,000
(借) 前	払	費用	5,000	

仕訳47

固定資産の割賦購入

第4章

月末になり、割賦契約で備品100,000円を購入したさいに振り出した約束手形21,000円(うち利息1,000円)を現金で決済した。なお、割賦購入をしたさい、利息は前払費用勘定で処理している。

(借) 営業外支払手形	21,000	(貸) 現	金	21,000	
(借) 支払利息	1,000	(貸) 前	払	費用	1,000

仕訳48

固定資産の除却・廃棄と買換え

第4章

当期首に備品(取得原価200,000円、減価償却累計額150,000円)を耐用年数到来前に除却した。なお、除却時に除却費用5,000円を現金で支払った。また、この備品の処分価値は15,000円と見積られた。

(借) 備品減価償却累計額	150,000	(貸) 備	品	200,000		
(借) 貯	蔵	品	15,000	(貸) 現	金	5,000
(借) 固定資産除却損	40,000					

仕訳49

固定資産の除却・廃棄と買換え

第4章

車両(取得原価500,000円、減価償却累計額405,000円)を廃棄し、廃車費用10,000円を現金で支払った。

(借) 車両運搬具減価償却累計額	405,000	(貸) 車両運搬具	500,000
(借) 固定資産廃棄損	105,000	(貸) 現金	10,000

仕訳50

固定資産の除却・廃棄と買換え

第4章

当期首に車両(取得原価300,000円、減価償却累計額180,000円、間接法で記帳)を150,000円で下取りに出し、新たに400,000円の車両を購入するとともに、差額の250,000円を現金で支払った。

(借) 車両運搬具減価償却累計額	180,000	(貸) 車両運搬具	300,000
(借) 車両運搬具	400,000	(貸) 固定資産売却益	30,000
		(貸) 現金	250,000

仕訳51

固定資産の滅失

第4章

当期首に建物(取得原価 100,000円、減価償却累計額 36,000円)が、火災により焼失した。なお、この建物は火災保険がかけられていない。

(借) 建物減価償却累計額	36,000	(貸) 建物	100,000
(借) 火災損失	64,000		

仕訳52

固定資産の減失

第4章

当期首に建物(取得原価 100,000円、減価償却累計額 36,000円)が、火災により焼失した。なお、この建物には80,000 円の火災保険がかけられていた。

(借) 建物減価償却累計額	36,000	(貸) 建物	100,000
(借) 未決算	64,000		

仕訳53

固定資産の減失

第4章

当期首に建物(取得原価100,000円、減価償却累計額36,000円)が火災により焼失したが、この建物には80,000 円の火災保険がかけられており、保険会社から保険金60,000円を支払う旨の通知があった。

(借) 未収入金	60,000	(貸) 未決算	64,000
(借) 火災損失	4,000		

仕訳54

資本的支出と収益的支出

第4章

建物の定期修繕と改良を行い、代金100,000円を小切手を振り出して支払った。このうち40,000円は改良代(資本的支出)、残りは修繕費である。

(借) 建物	40,000	(貸) 当座預金	100,000
(借) 修繕費	60,000		

仕訳55

無形固定資産

第4章

特許権を取得したが、これに要した費用は70,000円であり、現金で支払った。また、登録料として、10,000円を小切手を振り出して支払った。

(借) 特	許	権	80,000	(貸) 現	金	70,000
				(貸) 当	座	預
					金	10,000

仕訳56

無形固定資産

第4章

決算において、特許権(期首に80,000円で計上)を償却する。償却期間は8年である。

(借) 特	許	権	償	却	10,000	(貸) 特	許	権	10,000
-------	---	---	---	---	--------	-------	---	---	--------

仕訳57

無形固定資産

第4章

当期首にソフトウェア100,000円を購入し、自社用にカスタマイズするための費用180,000円とともに現金で支払った。

(借) ソ	フ	ト	ウ	ェ	ア	280,000	(貸) 現	金	280,000
-------	---	---	---	---	---	---------	-------	---	---------

仕訳58

無形固定資産

第4章

決算において、当期首に取得したソフトウェア280,000円について、定額法により5年間で償却する。

(借) ソフトウェア 償 却 56,000 (貸) ソ フ ト ウ ェ ア 56,000

仕訳59

研究開発費

第4章

研究開発目的で、材料10,000円、実験器具20,000円および他の目的に転用できない備品30,000円を購入し、小切手を振り出して支払った。

(借) 研 究 開 発 費 60,000 (貸) 当 座 預 金 60,000

仕訳60

割引きと割戻し

第5章

仕入先B社に対する買掛金10,000円につき、200円の割引きを受け、差額は小切手を振り出して支払った。①当社からみた仕訳と②B社からみた仕訳を示しなさい。

当社	(借) 買 掛 金	10,000	(貸) 仕 入 割 引	200
			(貸) 当 座 預 金	9,800
B社	(借) 売 上 割 引	200	(貸) 売 掛 金	10,000
	(借) 現 金	9,800		

仕訳61

割引きと割戻し

第5章

仕入先B社からの仕入額10,000円に対して、300円の割戻しを受けて、掛けと相殺した。
①当社からみた仕訳と②B社からみた仕訳を示しなさい。

当社 (借) 買 掛 金 300 (貸) 仕 入 300

B社 (借) 売 上 300 (貸) 売 掛 金 300

仕訳62

売上の計上基準

第5章

当社は、出荷基準によって売上进行している。次の各場合の仕訳を示しなさい。

- ① 得意先に商品10,000円を掛けて販売し、商品を発送した。
- ② 得意先より商品10,000円が到着した旨の連絡を受けた。
- ③ 得意先より②の商品の検収が完了した旨の連絡を受けた。ただし、そのうちの500円については品違いであったとの連絡を受け、売掛金と相殺した。

① (借) 売 掛 金 10,000 (貸) 売 上 10,000

② 仕 訳 な し

③ (借) 売 上 500 (貸) 売 掛 金 500

仕訳63

売上の計上基準

第5章

当社は、引渡基準によって、売上进行している。次の各場合の仕訳を示しなさい。

- ① 得意先に商品10,000円を掛けて販売し、商品を発送した。
- ② 得意先より商品10,000円が到着した旨の連絡を受けた。
- ③ 得意先より②の商品の検収が完了した旨の連絡を受けた。ただし、そのうちの500円については品違いであったとの連絡を受け、売掛金と相殺した。

① 仕 訳 な し

② (借) 売 掛 金 10,000 (貸) 売 上 10,000

③ (借) 売 上 500 (貸) 売 掛 金 500

当社は、検収基準によって、売上を計上している。次の各場合の仕訳を示しなさい。

- ① 得意先に商品10,000円を掛けて販売し、商品を発送した。
- ② 得意先より商品10,000円が到着した旨の連絡を受けた。
- ③ 得意先より②の商品の検収が完了した旨の連絡を受けた。ただし、そのうちの500円については品違いであったとの連絡を受け、売掛金と相殺した。

①	仕	訳	な	し		
②	仕	訳	な	し		
③	(借)	売	掛	金	9,500	(貸) 売 上 9,500

期末商品の帳簿数量は10個(@100円)であったが、実際数量は8個であった。

(借)	棚	卸	減	耗	損	200	(貸)	繰	越	商	品	200
-----	---	---	---	---	---	-----	-----	---	---	---	---	-----

期末において実際数量8個の1個あたりの原価は@100円、正味売却価額は@90円であった。なお、売上原価は仕入勘定で算定すること。

(借)	商	品	評	価	損	80	(貸)	繰	越	商	品	80	
(借)	仕	入				80	(貸)	商	品	評	価	損	80

仕訳67

役務収益・役務費用

第5章

資格の受験指導を行う当社では、12月1日に6月検定試験向けの講座(受講期間6ヶ月)の受講料20,000円を現金で受け取った。

(借) 現	金	20,000	(貸) 前	受	金	20,000
-------	---	--------	-------	---	---	--------

仕訳68

役務収益・役務費用

第5章

資格の受験指導を行う当社では、12月25日に6月検定試験向け講座の教材制作費等12,000円を現金で支払った。なお、教材制作費等は仕掛品勘定に計上すること。

(借) 仕	掛	品	12,000	(貸) 現	金	12,000
-------	---	---	--------	-------	---	--------

仕訳69

役務収益・役務費用

第5章

資格の受験指導を行う当社では、12月1日に6月検定試験向けの講座(受講期間6ヶ月)の受講料20,000円を現金で受け取り、前受金勘定で処理していた。

3月31日の決算にさいし調べたところ、講座の7割が終了している。また、当期に提供したサービスに対する費用は8,400円であり、仕掛品勘定から役務原価勘定に振り替える。

(借) 前	受	金	14,000	(貸) 役	務	収	益	14,000
-------	---	---	--------	-------	---	---	---	--------

(借) 役	務	原	価	8,400	(貸) 仕	掛	品	8,400
-------	---	---	---	-------	-------	---	---	-------

仕訳70

株式会社と株式の発行

第6章

株式10株を1株あたり@60,000円で発行し、払込金額は当座預金とした。なお、資本金の額は会社法が定める原則的な金額とする。

(借) 当座預金	600,000	(貸) 資本金	600,000
----------	---------	---------	---------

仕訳71

株式会社と株式の発行

第6章

株式10株を1株あたり@60,000円で発行し、払込金額は当座預金とした。なお、資本金の額は会社法で認められる最低限度額とする。

(借) 当座預金	600,000	(貸) 資本金	300,000
		(貸) 資本準備金	300,000

仕訳72

株式会社と株式の発行

第6章

会社設立にあたり、株式発行費用300,000円を現金で支払った。なお、これは繰延資産として処理する。

(借) 創立費	300,000	(貸) 現金	300,000
---------	---------	--------	---------

会社設立後の新株発行にあたり、株式発行費用180,000円を現金で支払った。

(借) 株式発行費用	180,000	(貸) 現金	180,000
------------	---------	--------	---------

株式10株を1株あたり@50,000円で発行することとなり、そのすべての申し込みを受け、別段預金とした。

(借) 別段預金	500,000	(貸) 株式申込証拠金	500,000
----------	---------	-------------	---------

払込期日となり、株式の申込者から受け取っていた申込証拠金 500,000円を資本に振り替え、同時に別段預金を当座預金に預け替えた。なお、資本金の額は会社法で認められる最低額とする。

(借) 株式申込証拠金	500,000	(貸) 資本金	250,000
		(貸) 資本準備金	250,000

(借) 当座預金	500,000	(貸) 別段預金	500,000
----------	---------	----------	---------

吸収合併に際して、株式10株(時価@4,000円)を発行し全額を資本金とした。なお、この合併により受け入れた諸資産(時価)は100,000円、諸負債(時価)は60,000円であった。

(借) 諸	資	産	100,000	(貸) 諸	負	債	60,000
				(貸) 資	本	金	40,000

吸収合併に際して、株式10株(時価@5,000円)を発行し全額を資本金とした。なお、この合併により受け入れた諸資産(時価)は100,000円、諸負債(時価)は60,000円であった。

(借) 諸	資	産	100,000	(貸) 諸	負	債	60,000
(借) の	れ	ん	10,000	(貸) 資	本	金	50,000

吸収合併に際して、株式6株(時価@6,000円)を発行し全額を資本金とした。なお、この合併により受け入れた諸資産(時価)は、100,000円、諸負債(時価)は60,000円であった。

(借) 諸	資	産	100,000	(貸) 諸	負	債	60,000
				(貸) 資	本	金	36,000
				(貸) 負	の	れ	ん
					発	生	益
							4,000

仕訳79

会社の合併

第6章

決算において、期首に取得したのれん(10,000円)を償却する(定額法)。なお、償却期間は20年である。

(借) の	れ	ん	償	却	500	(貸) の	れ	ん	500
-------	---	---	---	---	-----	-------	---	---	-----

仕訳80

会社の合併

第6章

諸資産100,000円、諸負債60,000円の会社を買収し、対価として50,000円を小切手を振り出して支払った。

(借) 諸	資	産	100,000	(貸) 諸	負	債	60,000	
(借) の	れ	ん	10,000	(貸) 当	座	預	金	50,000

仕訳81

剰余金の処分

第6章

当期の決算において、当期純利益は600,000円と計算された。

(借) 損	益	600,000	(貸) 繰	越	利	益	剰	余	金	600,000
-------	---	---------	-------	---	---	---	---	---	---	---------

仕訳82

剰余金の処分

第6章

株主総会において、株主への配当金400,000円(繰越利益剰余金からの配当)が確定した。

(借) 繰越利益剰余金 400,000 (貸) 未払配当金 400,000

仕訳83

剰余金の処分

第6章

株主総会で決議された、株主配当金400,000円を現金で支払った。

(借) 未払配当金 400,000 (貸) 現金 400,000

仕訳84

剰余金の処分

第6章

株主総会において、繰越利益剰余金から別途積立金への積立て50,000円が確定した。

(借) 繰越利益剰余金 50,000 (貸) 別途積立金 50,000

利益準備金につき、会社法に規定されている金額を積み立てる。なお、株主配当金は500,000円(配当財源は繰越利益剰余金)、資本金は1,000,000円、資本準備金は70,000円、利益準備金(積立前)は60,000円である。

(借) 繰越利益剰余金	550,000	(貸) 未払配当金	500,000
		(貸) 利益準備金	50,000

利益準備金につき、会社法に規定されている金額を積み立てる。なお、株主配当金は500,000円(配当財源は繰越利益剰余金)、資本金は1,000,000円、資本準備金は120,000円、利益準備金(積立前)は90,000円である。

(借) 繰越利益剰余金	540,000	(貸) 未払配当金	500,000
		(貸) 利益準備金	40,000

繰越利益剰余金について、以下のように処分することが株主総会で承認された。

株主配当金:500,000円 利益準備金:50,000円
 別途積立金:150,000円

(借) 繰越利益剰余金	700,000	(貸) 未払配当金	500,000
		(貸) 利益準備金	50,000
		(貸) 別途積立金	150,000

仕訳88

株主資本の計数の変動と損失の処理

第6章

株主総会の決議により、資本準備金300,000円を減少して資本金に組み入れた。

(借) 資本準備金	300,000	(貸) 資本金	300,000
-----------	---------	---------	---------

仕訳89

株主資本の計数の変動と損失の処理

第6章

当期の決算において、当期純損失が600,000円と計算された。

(借) 繰越利益剰余金	600,000	(貸) 損益	600,000
-------------	---------	--------	---------

仕訳90

株主資本の計数の変動と損失の処理

第6章

繰越利益剰余金600,000円(借方残高)につき別途積立金400,000円を取り崩し、これをてん補した。なお、残額については次期に繰り越すことにした。

(借) 別途積立金	400,000	(貸) 繰越利益剰余金	400,000
-----------	---------	-------------	---------

仕訳91

租税公課と法人税等

第7章

事業用の店舗にかかる固定資産税800円を現金で支払った。

(借) 租 税 公 課	800	(貸) 現 金	800
-------------	-----	---------	-----

仕訳92

租税公課と法人税等

第7章

法人税等の中間納付として、80,000円を現金で納付した。

(借) 仮 払 法 人 税 等	80,000	(貸) 現 金	80,000
-----------------	--------	---------	--------

仕訳93

租税公課と法人税等

第7章

確定した法人税、住民税及び事業税の金額は200,000円であった。なお、中間納付額として80,000円を先に納付済みである。

(借) 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	200,000	(貸) 仮 払 法 人 税 等	80,000
		(貸) 未 払 法 人 税 等	120,000

仕訳94

租税公課と法人税等

第7章

法人税等の未払分120,000円を小切手を振り出して支払った。

(借) 未 払 法 人 税 等	120,000	(貸) 当 座 預 金	120,000
-----------------	---------	-------------	---------

仕訳95

租税公課と法人税等

第7章

銀行からの普通預金の利息5,000円と所有する株式に対する配当金10,000円について、税金20%相当額を差し引いた残額を現金で受け取った。

(借) 現 金	12,000	(貸) 受 取 利 息	5,000
(借) 仮 払 法 人 税 等	3,000	(貸) 受 取 配 当 金	10,000

仕訳96

消費税

第7章

B社から商品3,240円(税込価額)を仕入れ、代金は現金で支払った。
なお、消費税率は8%とし、当社は税抜方式を採用している。

(借) 仕 入	3,000	(貸) 現 金	3,240
(借) 仮 払 消 費 税	240		

仕訳97

消費税

第7章

C社に商品5,400円(税込価額)を販売し、代金は現金で受け取った。
 なお、消費税率は8%とし、当社は税抜方式を採用している。

(借) 現	金	5,400	(貸) 売	上	5,000
			(貸) 仮 受 消 費 税		400

仕訳98

消費税

第7章

決算において、仮払消費税が240円、仮受消費税が400円ある。当社は税抜方式を採用している。

(借) 仮 受 消 費 税	400	(貸) 仮 払 消 費 税	240
		(貸) 未 払 消 費 税	160

仕訳99

消費税

第7章

消費税の未払分160円を現金で納付した。当社は税抜方式を採用している。

(借) 未 払 消 費 税	160	(貸) 現	金	160
---------------	-----	-------	---	-----

仕訳100

消費税

第7章

B社から商品3,240円(税込価額)を仕入れ、代金は現金で支払った。
なお、消費税率は8%とし、当社は税込方式を採用している。

(借) 仕	入	3,240	(貸) 現	金	3,240
-------	---	-------	-------	---	-------

仕訳101

消費税

第7章

C社に商品5,400円(税込価額)を販売し、代金は現金で受け取った。
なお、消費税率は8%とし、当社は税込方式を採用している。

(借) 現	金	5,400	(貸) 売	上	5,400
-------	---	-------	-------	---	-------

仕訳102

消費税

第7章

決算において、仕入れに関して生じた消費税が240円、売上に関して生じた消費税が400円ある。当社は税込方式を採用している。

(借) 租	税	公	課	160	(貸) 未	払	消	費	税	160
-------	---	---	---	-----	-------	---	---	---	---	-----

仕訳103

消費税

第7章

消費税の未払分160円を現金で納付した。当社は税込方式を採用している。

(借) 未 払 消 費 税	160	(貸) 現	金	160
---------------	-----	-------	---	-----

仕訳104

貸倒引当金

第8章

決算において、売掛金残高100,000円に対して貸倒引当金を設定する。なお、貸倒実績率は5%で計算することとし、貸倒引当金の残高は1,000円である。

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入	4,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	4,000
-------------------	-------	---------------	-------

仕訳105

貸倒引当金

第8章

決算において、A社の財政状態が悪化しているため、A社に対する売掛金100,000円の回収不能額を50%と見積もって、貸倒引当金を設定する。

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入	50,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	50,000
-------------------	--------	---------------	--------

仕訳106

貸倒引当金

第8章

前期に発生した売掛金7,000円が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は5,000円である。

(借) 貸 倒 引 当 金	5,000	(貸) 売 掛 金	7,000
(借) 貸 倒 損 失	2,000		

仕訳107

貸倒引当金

第8章

前期に貸倒れの処理をしていた売掛金2,000円を現金で回収した。

(借) 現 金	2,000	(貸) 償 却 債 権 取 立 益	2,000
---------	-------	-------------------	-------

仕訳108

その他の引当金

第8章

決算において、退職給付引当金800,000円を繰り入れた。

(借) 退 職 給 付 費 用	800,000	(貸) 退 職 給 付 引 当 金	800,000
-----------------	---------	-------------------	---------

仕訳109

その他の引当金

第8章

従業員Aが退職したので、退職金500,000円を現金で支払った。

(借) 退職給付引当金	500,000	(貸) 現金	500,000
-------------	---------	--------	---------

仕訳110

その他の引当金

第8章

決算において、修繕引当金100,000円を繰り入れた。

(借) 修繕引当金繰入	100,000	(貸) 修繕引当金	100,000
-------------	---------	-----------	---------

仕訳111

その他の引当金

第8章

建物の定期修繕にさいし、修繕費120,000円を現金で支払った。なお、修繕引当金の残高は100,000円である。

(借) 修繕引当金	100,000	(貸) 現金	120,000
(借) 修繕費	20,000		

仕訳112**その他の引当金****第8章**

決算において、商品保証引当金 50,000円を繰り入れた。

(借) 商品保証引当金繰入	50,000	(貸) 商品保証引当金	50,000
---------------	--------	-------------	--------

仕訳113**その他の引当金****第8章**

前期に販売した商品について修理を行い、修理費用として 30,000 円を現金で支払った。なお、商品保証引当金 50,000円が設定されている。

(借) 商品保証引当金	30,000	(貸) 現金	30,000
-------------	--------	--------	--------

仕訳114**その他の引当金****第8章**

決算において、当期の売上高50,000円に対して、2%の売上割戻引当金を繰り入れた。

(借) 売上割戻引当金繰入	1,000	(貸) 売上割戻引当金	1,000
---------------	-------	-------------	-------

仕訳115

その他の引当金

第8章

売上割戻し300円を行い、売掛金と相殺した。この300円は前期販売分に対するものである。なお、売上割戻引当金の残高は1,000円である。

(借) 売上割戻引当金	300	(貸) 売掛金	300
-------------	-----	---------	-----

仕訳116

その他の引当金

第8章

決算において、返品調整引当金20円を繰り入れた。

(借) 返品調整引当金繰入	20	(貸) 返品調整引当金	20
---------------	----	-------------	----

仕訳117

その他の引当金

第8章

商品15円(原価12円、利益3円)が返品され、掛代金と相殺した。返品15円は前期に販売したものである。
 なお、前期末に返品調整引当金20円が設定されている。

(借) 返品調整引当金	3	(貸) 売掛金	15
(借) 仕入	12		

決算において、次期に支給予定の賞与12,000円のうち当期負担分10,000円を引当金として設定した。

(借) 賞与引当金繰入	10,000	(貸) 賞与引当金	10,000
-------------	--------	-----------	--------

従業員に対する賞与12,000円を当座預金口座より振り込んだ。なお、賞与引当金の残高は10,000円である。

(借) 賞与引当金	10,000	(貸) 当座預金	12,000
(借) 賞与	2,000		

従業員に対する賞与12,000円のうち、源泉所得税1,800円を天引きした額を当座預金口座より振り込んだ。なお、賞与引当金の残高は10,000円である。

(借) 賞与引当金	10,000	(貸) 当座預金	10,200
(借) 賞与	2,000	(貸) 預り金	1,800

決算において、次期に支払う予定の役員賞与に対して、役員賞与引当金4,000円を設定する。

(借) 役員賞与引当金繰入	4,000	(貸) 役員賞与引当金	4,000
---------------	-------	-------------	-------

役員賞与4,000円を現金で支払った。なお、前期末に役員賞与引当金4,000円が設定されている。

(借) 役員賞与引当金	4,000	(貸) 現金	4,000
-------------	-------	--------	-------

決算にさいし、保険料(保険料勘定で処理済み)を20ヶ月分前払いしていることが判明した。なお、保険料は1ヶ月あたり1,000である。

(借) 前払費用	12,000	(貸) 保険料	20,000
(借) 長期前払費用	8,000		

決算整理をした後の各勘定の残高は次のとおりであった。

売上高 100(貸方残), 仕入 30(借方残), 減価償却費 10(借方残)

収益、費用の各勘定から損益勘定に振り替え、さらに当期純損益を繰越利益剰余金勘定に振り替えなさい。

(借) 売	上	100	(貸) 損	益	100
(借) 損	益	40	(貸) 仕	入	30
			(貸) 減 価 償 却 費		10
(借) 損	益	60	(貸) 繰 越 利 益 剰 余 金		60

仕入先より商品 8,000円を掛けて仕入れた。商品の記帳方法は、売上原価対立法による。

(借) 商	品	8,000	(貸) 買	掛	金	8,000
-------	---	-------	-------	---	---	-------

得意先に商品(原価6,300円)を9,000円で掛けて販売した。商品の記帳方法は、売上原価対立法による。

(借) 売	掛	金	9,000	(貸) 売	上	9,000	
(借) 売	上	原	価	6,300	(貸) 商	品	6,300

仕訳127

月次決算

第9章

月次決算を行う。月末商品棚卸高は、1,700円である。商品の記帳方法は、売上原価対立法による。

仕 訳 な し

仕訳128

月次決算

第9章

月次決算にさいし、建物(取得原価:120,000円、残存価額:取得原価の10%、耐用年数30年、定額法、間接法)について、減価償却費を見積り、月割計上を行う。

(借) 減 価 償 却 費	300	(貸) 建 物 減 価 償 却 累 計 額	300
---------------	-----	-----------------------	-----

仕訳129

月次決算

第9章

当社は、月次決算を行い減価償却費については300円を月割計上している。年次決算にあたり、減価償却費について必要な仕訳を示しなさい。

仕 訳 な し

仕訳130**月次決算****第9章**

当社は、月次決算を行い減価償却費については300円を月割計上している。年次決算にあたり、建物について期中に改良を行った分の減価償却費500円を計上する。

(借) 減 価 償 却 費	500	(貸) 建物減価償却累計額	500
---------------	-----	---------------	-----

仕訳131**月次決算****第9章**

期中に1年分の保険料1,200円をまとめて小切手を振り出して支払った。なお、当社は月次決算を行っており、前払保険料勘定を用いて処理している。

(借) 前 払 保 険 料	1,200	(貸) 当 座 預 金	1,200
---------------	-------	-------------	-------

仕訳132**月次決算****第9章**

月次決算にあたり、当月分の保険料100円を前払保険料勘定から振り替えた。

(借) 保 険 料	100	(貸) 前 払 保 険 料	100
-----------	-----	---------------	-----

当社は、月次決算を行い保険料については100円を月割計上している。年次決算にあたり、保険料について必要な仕訳を示しなさい。

仕 訳 な し

東京本店が、大阪支店に現金1,300円を送金し、大阪支店はこれを受け取った。①東京本店と②大阪支店の仕訳を示しなさい。

①	(借) 支	店	1,300	(貸) 現	金	1,300
②	(借) 現	金	1,300	(貸) 本	店	1,300

大阪支店が、東京本店の買掛金500円を現金で支払った。①東京本店と②大阪支店の仕訳を示しなさい。

①	(借) 買	掛	金	500	(貸) 支	店	500
②	(借) 本	店	500	(貸) 現	金	500	

仕訳136

本支店会計

第10章

東京本店が、大阪支店に商品(原価200円)を送り、大阪支店は、これを受け取った。①東京本店と②大阪支店の仕訳を示しなさい。

①	(借) 支	店	200	(貸) 仕	入	200
②	(借) 仕	入	200	(貸) 本	店	200

仕訳137

本支店会計

第10章

A社は東京に本店があり、大阪と新潟に支店がある。大阪支店は新潟支店に現金100円を送付した。支店分散計算制度を採用している場合の①東京本店、②大阪支店、③新潟支店の仕訳を示しなさい。

①	仕	訳	なし					
②	(借) 新	潟	支	店	100	(貸) 現	金	100
③	(借) 現	金	100	(貸) 大	阪	支	店	100

仕訳138

本支店会計

第10章

A社は東京に本店があり、大阪と新潟に支店がある。大阪支店は新潟支店に現金100円を送付した。本店集中計算制度を採用している場合の①東京本店、②大阪支店、③新潟支店の仕訳を示しなさい。

①	(借) 新	潟	支	店	100	(貸) 大	阪	支	店	100
②	(借) 本	店	100	(貸) 現	金	100				
③	(借) 現	金	100	(貸) 本	店	100				

仕訳139

本支店会計

第10章

A社は東京に本店があり、大阪に支店がある。東京本店の決算整理後残高試算表によれば支店勘定は500円の借方残高である。大阪支店の決算整理後残高試算表によれば本店勘定は500円の貸方残高である。

本支店合併財務諸表の作成にあたり、支店勘定と本店勘定の相殺消去をなさい。

(借) 本	店	500	(貸) 支	店	500
-------	---	-----	-------	---	-----

仕訳140

外貨建取引

第12章

商品10ドルを掛けで売り上げた。売上時の為替レートは1ドル120円である。

(借) 売	掛	金	1,200	(貸) 売	上	1,200
-------	---	---	-------	-------	---	-------

仕訳141

外貨建取引

第12章

売掛金10ドルの送金があり、取引銀行で円貨に両替し、現金で受け取った。売上時の為替レートは1ドル120円、決済時の為替レートは1ドル115円である。

(借) 現	金	1,150	(貸) 売	掛	金	1,200
(借) 為	替	差	損	益	50	

仕訳142

外貨建取引

第12章

期末における外貨建て資産と負債は次のとおりである。決算にあたり、換算替えを行う。なお、決算時の為替レートは1ドル110円である。

現金:帳簿価格980円、外貨建金額10ドル
 売掛金:帳簿価格2,300円、外貨建金額20ドル
 買掛金:帳簿価格1,500円、外貨建金額15ドル
 支払手形:帳簿価格580円、外貨建金額5ドル

(借) 現	金	120	(貸) 売	掛	金	100	
(借) 支	払	手	形	(貸) 買	掛	金	150
(借) 為	替	差	損	益		100	

仕訳143

外貨建取引

第12章

- ① 商品10ドルを掛けて売り上げた。なお、取引と同時に為替予約を行った。取引時の為替レートは1ドル100円、予約レートは1ドル102円である。
- ② 決算日を迎えた。決算時の為替レートは1ドル98円である。
- ③ ①の掛代金が決済され、取引銀行で円貨に両替し、当座預金口座に入金した。

①	(借) 売	掛	金	1,020	(貸) 売	上	1,020		
②		仕	訳	な	し				
③	(借) 当	座	預	金	1,020	(貸) 売	掛	金	1,020

仕訳144

外貨建取引

第12章

- ① ×1年12月1日、商品10ドルを掛けて売り上げた。取引時の為替レートは1ドル100円である。
- ② ×2年2月1日、売掛金10ドルに為替予約を行った。予約時の為替レートは1ドル101円、予約レートは1ドル103円である。振当処理によるが、直先差額はすべて当期の損益として処理する。

①	(借) 売	掛	金	1,000	(貸) 売	上	1,000			
②	(借) 売	掛	金	30	(貸) 為	替	差	損	益	30

仕訳144において、

- ③ ×2年3月31日、決算日を迎えた。決算時の為替レートは1ドル98円である。
 ④ ×2年11月30日、売掛金10ドルが送金され、取引銀行で円貨に両替し現金で受け取った。決済時の為替レートは1ドル95円である。

③	仕	記	な	し					
④	(借)	現	金	1,030	(貸)	売	掛	金	1,030

当社は、期首(×1年4月1日)に、A社と機械のリース契約を、年間のリース料6,000円(毎年3月末日払い)、期間5年の条件で締結した。なお、リース料総額30,000円、見積現金購入価額27,600円である。

- ①利子抜き法による場合と、②利子込み法による場合、それぞれの仕訳を示しなさい。

①	(借)	リ	ー	ス	資	産	27,600	(貸)	リ	ー	ス	債	務	27,600
②	(借)	リ	ー	ス	資	産	30,000	(貸)	リ	ー	ス	債	務	30,000

仕訳146において、

1回目(×2年3月31日)のリース料支払時(当座預金口座より支払い)の処理について、①利子抜き法による場合と、②利子込み法による場合、それぞれの仕訳を示しなさい。

①	(借)	リ	ー	ス	債	務	5,520	(貸)	当	座	預	金	6,000
	(借)	支	払	利	息		480						
②	(借)	リ	ー	ス	債	務	6,000	(貸)	当	座	預	金	6,000

仕訳148

リース取引

第12章

決算にあたり、リース資産(27,600円)の減価償却(間接法)を行う。リース期間は5年、機械の耐用年数は6年、残存価額は取得原価の10%である。

①所有権移転ファイナンス・リース取引の場合と、②所有権移転外ファイナンス・リース取引の場合それぞれの仕訳を示しなさい。

①	(借) 減 価 償 却 費	4,140	(貸) リース資産減価償却 累 計 額	4,140
②	(借) 減 価 償 却 費	5,520	(貸) リース資産減価償却 累 計 額	5,520

仕訳149

リース取引

第12章

当社は、期首(×1年4月1日)に、A社と機械のリース契約(オペレーティング・リース取引)を締結した。なお、リース料総額は30,000円であり、毎年3月末日に6,000円ずつ当座預金口座より支払う。

この場合の、①×1年4月1日(リース取引開始時)と②×2年3月31日(リース料支払時)それぞれの仕訳を示しなさい。

①	仕 訳 な し			
②	(借) 支 払 リ ー ス 料	6,000	(貸) 当 座 預 金	6,000

仕訳150

圧縮記帳

第12章

当社は、廃棄物を処理する機械を購入するため、国庫補助金8,000円を受け取り、当座預金口座に預け入れた。

(借) 当 座 預 金	8,000	(貸) 国 庫 補 助 金 受 贈 益	8,000
-------------	-------	---------------------	-------

仕訳151

圧縮記帳

第12章

廃棄物を処理する機械12,000円を購入し、代金は受取った国庫補助金8,000円に自己資金を加え、小切手を振り出して支払った。なお、この機械について圧縮記帳を行う。

(借) 機	械	12,000	(貸) 当	座	預	金	12,000
(借) 固	定	資	産	圧	縮	損	8,000
(貸) 機						械	8,000

仕訳152

圧縮記帳

第12章

当期首に購入した機械(取得原価12,000円、国庫補助金8,000円を受け取っており、圧縮記帳を行っている)について減価償却を行う。

減価償却方法は定額法(耐用年数4年、残存価額ゼロ)によって行い、間接法で記帳する。

(借) 減	価	償	却	費	1,000	(貸) 機	械	減	価	償	却	累	計	額	1,000
-------	---	---	---	---	-------	-------	---	---	---	---	---	---	---	---	-------

仕訳153

連結会計(投資と資本の相殺消去)

第13章

S社(子会社)は、P社(親会社)に対して、S社株式100株を@50円で発行し、すべてを資本金として処理した。

①株式発行時のP社の仕訳②株式発行時のS社の仕訳③連結修正仕訳を示しなさい。

①	(借) S	社	株	式	5,000	(貸) 現	金	な	ど	5,000
②	(借) 現	金	な	ど	5,000	(貸) 資	本	金		5,000
③	(借) 資	本	金		5,000	(貸) S	社	株	式	5,000

仕訳154

連結会計（投資と資本の相殺消去）

第13章

P社は、x1年3月31日にS社の発行済株式(S社株式)のすべてを500円で取得し、支配した。連結修正仕訳を示しなさい。なお、P社、S社ともに決算日は3月31日であり、x1年3月31日貸借対照表は次のとおりである。

P社: 諸資産1,500円、S社株式500円、諸負債600円、資本金1,000円、利益剰余金400円

S社: 諸資産800円、諸負債300円、資本金400円、利益剰余金100円

(借) 資	本	金	400	(貸) S	社	株	式	500
(借) 利	益	剰	余	金				100

仕訳155

連結会計（投資と資本の相殺消去）

第13章

P社は、x1年3月31日にS社の発行済株式(S社株式)のすべてを650円で取得し、支配した。連結修正仕訳を示しなさい。なお、P社、S社ともに決算日は3月31日であり、x1年3月31日貸借対照表は次のとおりである。

P社: 諸資産1,500円、S社株式650円、諸負債600円、資本金1,000円、利益剰余金550円

S社: 諸資産800円、諸負債300円、資本金400円、利益剰余金100円

(借) 資	本	金	400	(貸) S	社	株	式	650
(借) 利	益	剰	余	金				100
(借) の	れ	ん	150					

仕訳156

連結会計（投資と資本の相殺消去）

第13章

P社は、x1年3月31日にS社の発行済株式(S社株式)の60%を350円で取得し支配した。連結修正仕訳を示しなさい。なお、P社、S社ともに決算日は3月31日であり、x1年3月31日貸借対照表は次のとおりである。

P社: 諸資産1,650円、S社株式350円、諸負債600円、資本金1,000円、利益剰余金400円

S社: 諸資産800円、諸負債300円、資本金400円、利益剰余金100円

(借) 資	本	金	400	(貸) S	社	株	式	350
(借) 利	益	剰	余	金	(貸) 非	支	配	株
								主
								持
								分
								200
(借) の	れ	ん	50					

P社は、x1年3月31日にS社の発行済株式(S社株式)の60%を350円で取得し支配した。次の資料にもとづき、当期(x1年4月1日からx2年3月31日)の連結財務諸表を作成するための連結開始仕訳を示しなさい。なお、P社、S社ともに決算日は3月31日であり、x1年3月31日貸借対照表は次のとおりである。

S社:諸資産850円、諸負債300円、資本金400円、利益剰余金150円

(借) 資本金当期首残高	400	(貸) S社株式	350
(借) 利益剰余金当期首残高	150	(貸) 非支配株主持分	220
(借) のれん	20		

P社は、x1年3月31日にS社の発行済株式(S社株式)の60%を取得し、支配した。そのさい、のれん20円(借方)が計上された。

当期(x1年4月1日からx2年3月31日)の連結財務諸表を作成するために必要な連結修正仕訳(のれんの償却)を示しなさい。ただし、のれんは発生年度の翌年から20年間で均等に償却する。

(借) のれん償却	1	(貸) のれん	1
-----------	---	---------	---

P社は、x1年3月31日にS社の発行済株式(S社株式)の60%を取得し、支配した。

当期(x1年4月1日からx2年3月31日)にS社は当期純利益100円を計上した。連結財務諸表を作成するために必要な連結修正仕訳(当期純利益の振替え)を示しなさい。

(借) 非支配株主に帰属する当期純利益	40	(貸) 非支配株主持分当期変動額	40
---------------------	----	------------------	----

P社は、前期末にS社の発行済株式(S社株式)のうち60%を取得し、支配した。連結財務諸表上の剰余金の配当を計算する。

当期のP社とS社の剰余金の配当の額は、それぞれ200円と80円である。

(借) 受取配当金	48	(貸) 剰余金の配当	80
(借) 非支配株主持分 当期変動額	32		

P社(親会社)は、S社(子会社)に対する短期貸付金500円がある。また、これに対する受取利息20円と未収収益(受取利息にかかるもの)10円も計上している。連結修正仕訳を示しなさい。

(借) 短期借入金	500	(貸) 短期貸付金	500
(借) 受取利息	20	(貸) 支払利息	20
(借) 未払費用	10	(貸) 未収収益	10

P社は、S社の発行済株式(S社株式)の60%を所有し、支配している。

P社は、S社に対する売掛金1,000円がある。この売掛金には、2%の貸倒引当金が設定されている。連結修正仕訳を示しなさい。

(借) 買掛金	1,000	(貸) 売掛金	1,000
(借) 貸倒引当金	20	(貸) 貸倒引当金繰入	20

仕訳163

連結会計（連結会社間の取引）

第13章

P社(親会社)は、S社(子会社)に対して、当期に商品3,000円を売り上げた。連結修正仕訳を示しなさい。

(借) 売	上	高	3,000	(貸) 売	上	原	価	3,000
-------	---	---	-------	-------	---	---	---	-------

仕訳164

連結会計（連結会社間の取引）

第13章

P社は、S社の発行済株式(S社株式)の60%を所有し、支配している。

P社は、S社に仕入原価に20%の利益を付加して商品を販売しており、S社の期末商品120円はP社から仕入れたものである。連結修正仕訳を示しなさい。

(借) 売	上	原	価	20	(貸) 商	品	20
-------	---	---	---	----	-------	---	----

仕訳165

連結会計（連結会社間の取引）

第13章

P社は、S社の発行済株式(S社株式)の60%を所有し、支配している。

P社は、S社に対し、土地(帳簿価額8,000円)を12,000円で現金で売却し、S社はこの土地を期末現在、保有している。連結修正仕訳を示しなさい。

(借) 固	定	資	産	売	却	益	4,000	(貸) 土	地	4,000
-------	---	---	---	---	---	---	-------	-------	---	-------

第1期において、会計上、売掛金に対する貸倒引当金繰入として10円を計上したが、税法上、損金に算入することが認められなかった。税率は40%である。税効果会計にかかる仕訳を示しなさい。

(借) 繰延税金資産	4	(貸) 法人税等調整額	4
------------	---	-------------	---

仕訳166において、

第2期に売掛金が貸倒れたため、第1期の貸倒引当金繰入10円が税法上、損金に算入することが認められた。

(借) 法人税等調整額	4	(貸) 繰延税金資産	4
-------------	---	------------	---

第1期の期首に機械12,000円を取得し、期末に会計上は8年(残存価額ゼロ)で定額法(間接法)により減価償却を行った。

税務上の法定耐用年数は10年(残存価額ゼロ)である。なお、法人税等の実効税率は40%である。税効果会計にかかる仕訳を示しなさい。

(借) 繰延税金資産	120	(貸) 法人税等調整額	120
------------	-----	-------------	-----

仕訳168において、

第2期に機械を売却したため、償却超過額300円が損金に算入された。

(借) 法人税等調整額	120	(貸) 繰延税金資産	120
-------------	-----	------------	-----

決算につき、その他有価証券(取得原価1,000円、期末時価1,100円)について、全部純資産直入法により評価替えする。なお、法人税等の法定実効税率は40%であり、税効果会計を適用する。

(借) その他有価証券	100	(貸) 繰延税金負債	40
		(貸) その他有価証券 評価差額金	60

決算につき、その他有価証券(取得原価1,500円、期末時価1,400円)について、全部純資産直入法により評価替えする。なお、法人税等の法定実効税率は40%であり、税効果会計を適用する。

(借) 繰延税金資産	40	(貸) その他有価証券	100
(借) その他有価証券 評価差額金	60		

- ① 材料を10,000円を現金で購入した。
- ② 材料10,100円を消費した。このうち、直接材料費は8,100円、間接材料費は2,000円である。なお、月初の材料は700円であった。

①	(借) 材	料	10,000	(貸) 現	金	10,000	
②	(借) 仕	掛	品	8,100	(貸) 材	料	10,100
	(借) 製	造	間	接	費	2,000	

- ① 前月末に未払賃金1,400円を計上したため、月初に再振替仕訳を行った。
- ② 賃金36,000円を現金で支払った。
- ③ 月末現在の未払賃金は1,500円である。当月消費額はすべて直接労務費であり、仕掛品勘定に振り替える。

①	(借) 未	払	賃	金	1,400	(貸) 賃	金	1,400
②	(借) 賃	金	36,000	(貸) 現	金	36,000		
③	(借) 賃	金	1,500	(貸) 未	払	賃	金	1,500
	(借) 仕	掛	品	36,100	(貸) 賃	金	36,100	

- ① 前月末に未払給料800円を計上したため、月初に再振替仕訳を行った。
- ② 給料9,600円を現金で支払った。
- ③ 月末現在の未払給料は1,200円である。なお、給料のうち40%は、工場事務員に対するもの(すべて間接労務費)、残りの60%は本社従業員に対するものである。

①	(借) 未	払	賃	金	800	(貸) 給	料	800	
②	(借) 給	料	9,600	(貸) 現	金	9,600			
③	(借) 給	料	1,200	(貸) 未	払	賃	金	1,200	
	(借) 製	造	間	接	費	4,000	(貸) 給	料	4,000

期首に建物を取得した。建物の取得原価は、600,000円、耐用年数 15年、定額法(間接法)、残存価額は取得原価の10%であり、減価償却費については、期首に年間発生額を見積もり、年間発生額の12分の1を毎月計上している。

当月の減価償却費のうち60%は間接経費であり、残額は販売費及び一般管理費に該当する。

(借) 減 価 償 却 費	3,000	(貸) 建物減価償却累計額	3,000
(借) 製 造 間 接 費	1,800	(貸) 減 価 償 却 費	1,800

製造間接費の実際発生額7,800円を仕掛品勘定に振替える。

(借) 仕 掛 品	7,800	(貸) 製 造 間 接 費	7,800
-----------	-------	---------------	-------

製造間接費の予定配賦を行い、予定配賦額7,000円を製造間接費勘定の貸方から仕掛品勘定の借方に振り替えていたが、製造間接費の実際発生額として製造間接費勘定の借方に集計された金額は7,800円であった。

製造間接費配賦差異は、売上原価に直課する。

(借) 売 上 原 価	800	(貸) 製 造 間 接 費	800
-------------	-----	---------------	-----

P社はS社の発行済株式(S社株式)の60%を所有し、支配している。
S社はP社に対し、土地(帳簿価額8,000円)を12,000円で現金で売却し、P社はこの土地を期末現在、保有している。連結修正仕訳を示しなさい。

(借) 固定資産売却益	4,000	(貸) 土地	4,000
(借) 非支配株主持分 当期変動額	1,600	(貸) 非支配株主に帰属する 当期純利益	1,600

P社はS社の発行済株式(S社株式)の60%を所有し、支配している。
S社はP社に対する売掛金1,000円がある。この売掛金には、2%の貸倒引当金が設定されている。連結修正仕訳を示しなさい。

(借) 買掛金	1,000	(貸) 売掛金	1,000
(借) 貸倒引当金	20	(貸) 貸倒引当金繰入	20
(借) 非支配株主に帰属する 当期純利益	8	(貸) 非支配株主持分当期変動額	8